

湯沢賢之助
江本裕編

玉々々

古典文庫

湯沢賢之助
江本裕編

玉
々
け

平成二年二月二十日印刷発行

非売品

玉くしげ

編者

湯沢賢之助
江本裕

発行者

吉田幸一

印刷者
白橋印刷所

発行所

114

東京都北区西ヶ原
三ノ三四ノ一二

古典文庫

電話（九一〇）二七一七
振替口座東京九・一四五九七番

目次

凡例	三
玉くしけ	一
たまくしけ	二
玉櫛笥	三
たまくしけ	四
たまくしけ	五
玉櫛笥	六
たまくしけ	七

凡 例

一、本書は、林義端（文会堂）作『玉くしげ』七卷七冊、元禄八年版をできる限り原文に忠実に翻刻したものである。底本として、原表紙原題簽の吉田幸一氏蔵本を使用した。が、国立国会図書館蔵本をも参照した。

一、翻刻にあたっては、印刷等の都合上、大体次のようにした。

イ、底本の丁うつりは、一丁表・裏を（一オ）・（一ウ）などの如く示した。

ロ、原本の句読点は「。」を使用してあるが、とくに新たに句読点を付すことはせずそのままとした。

ハ、漢字は慣用的に使われていた略字体・異字体を含め、原則として現行の字体に統一した。

ニ、かな文字は「ハ」「ミ」などを除き、現行の字体に統一した。

ホ、その他の表記についてはおおむね次のようにした。

・漢字一字分の「く」のおどり字は、原文のままとした。

・ 衍字、捨て仮名、誤刻等は原則として原文のままとし、右に（ママ）と傍記したところもある。

・ 清濁のあやまり、歴史的仮名遣いのあやまりはそのままとし、いちいち注記しなかった。

へ、挿絵は順序にしたがって番号を付し、原本の所在箇所を示した。

一、終りに、湯沢執筆の書誌と江本執筆の解説を付した。

湯 沢 賢之助
江 本 裕

玉
く
し
け
一

この書すゝすゝと一転むとぬひ
なすらやせしふ

え縁乙亥の冬霜月日

義端謹序



卷一序末（3ウ）

玉櫛笥序

過にし元禄庚午の春釈了意師老後のすさみに。犬はりこ数巻を著せり。その事皆新奇怪異の説話にして。世の人あまねく翫び流へぬ。去る癸酉の年予いやしくもその芳躅を繼て。年ごろ見及び聞（一オ）伝へし。近世奇怪の物語をあつめ玉櫛笥と題し。やうやく半かき三巻を著し函の底におさむ。そのうちことわざしげきにまぎれ。書もつゞけずたへて忘れぬるに。この秋ひたすらその終を遂て梓にちりばめ世に広めよとすゝむる友あり。（二ウ）

つよくもいなひがたくいそがわしく筆をそめ数日のうちにまた四巻をゑらび加へて全き書となしぬ。世の人常の道をいとひてたゞ怪しき

事をのミ聞きかまくおもふ。予よもまたこの癖くせあり。ふるくそミたるならひ。ミづからやめまくおもへど（三オ）かなはず。才さいのつたなきをはぐからずして。かうやうの怪談くわいだんを集あつむ。是これしかしながら経つねにそむき淫たわれを誨をしめるに近ちかからずや。まことに君子くんしの取とぎるわざにこそ。しかれども又ミづからおもふに。正理しやうりを説といて愚蒙ぐもうをみちびくハ反かへつて奇怪きくわい神異しんいの（二ウ）

感通かんつうしやすきにしかず。世の兒女じぢよの輩ともがらこの書しよに感かんありて。神仙しんせん応報おうほうのむなしからざることを信しんじ。君父くんふ忠孝ちゆうこうのつとむべきをわきまへ。その善よきものはならひ。その悪あしきものハ戒いましめ。すべて心をあらため身をつゝしむ媒なかだちとせバ（三オ）この書またすこしきおぎぬひなるらめやといふ

元禄乙亥の冬霜月日

義端謹序

印

印

(三ウ)

玉振菊如目錄

才一卷

序

養老游付^{やうらうのふ}又^{また}法園^{ほふゑん}司考^{しこう}仍^{なほ}如^{ごと}漢事^{かんじ}

讀^{よみ}經^{きやう}猿^{ゑん}記^き

圖^ず表^のれ^い牛^う鬼^{おに}の事^{こと}

依^よ列^り立^た綿^{めん}大^{だい}地^ちは^は沉^{ちん}大^{だい}龜^き吾^{われ}之^の事^{こと}

玉櫛笥惣目録

第一卷

序しよ

養老やうらうのたま滝付たきづ美濃国みののこく司孝行しかうくもの物語ものがたり事

読よむしきやうをさるのき経きやうをさるのき猿記さるのき

閨夜やみのよの牛鬼うしおにの事

信州しんしゅうのざいごうだい在郷大地ちに沈大鱸しづみおほすゝきのむひとを吞を人事じんじ（四才）

第二卷

赤井強左衛門あかいがうざへもんとさほう土佐坊ゆうれいが幽靈あふに逢事

瞽者知こしやしる二三世さんぜを事

親しん子し奇き遇ぐ付す杉ぎ田たが妻つま嫉まし妬つとの事

三み浦う荒あら次じ郎らう討うち死じ付に和お尚しやう道だう歌か事

狐きつ人ねに化ひとて貴き狐こ明みやう神じん物もの語がたり事

第三卷（四ウ）

畜ちく生しやう塚づか

老おい蘇その森もり絵ゑ馬ま夜や行ぎやう事

沢さわ井い何なに某がし子こ兄きやう弟だい蒙かう二ふく觀わん音おん靈のれい驗けん一を事

松まつ永なが彈だん正じやう墮お二つる地ち獄ごく一に事

第四卷

少せう年ねん夢ゆめの契ちぎりの事

岸きし部べ何なに某がし少せう年ねん愛あいし兵ひやう法はう伝でん授じゆの事（五才）